

和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会の実施について(報告)

和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会規程第3条第1項の規定に基づき、令和3年度第1回和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会を実施しましたので、以下のとおり報告します。

1. 開催日時 令和3年7月30日(金) 15時～17時
2. 場 所 和歌山県立医科大学附属病院中央棟4階 臨床講堂I (オンライン開催)
3. 出席委員 委員長 山口 悦子 (大阪市立大学)
副委員長 中川 利彦 (パークアベニュー法律事務所)
委員 石井 浩子 (NPO 法人いきいき和歌山がんサポート)
4. 院内出席者 病院長・管理者 中尾 直之
医療安全管理責任者・副院長 加藤 正哉
医療安全推進部長 水本 一弘
医薬品安全管理責任者・薬剤部長 松原 和夫
医療機器安全管理責任者・臨床工学センター長 原 勲
臨床工学センター工学技士長 中村 一貴
事務局次長(病院担当) 崎山 秀樹
5. 議事次第 インシデント・アクシデント事例の概要及び対応状況について

6. 監査結果

インシデント・アクシデント事例の概要及び対応状況について

- ・ 一番患者の近くで寄り添っている看護師からのレポート報告件数が多いのは、報告しやすい良いシステムを構築しているからだと思った。
- ・ 緊急コールについては2段階になっており、MET コールにより早期に介入・治療ができること、また職員が常にカードを携帯していることは患者の安心につながると感じた。
- ・ CT 読影に係る事例について、原因を分析して改善案を出し、前向きな対応をされているので、引き続き努力をお願いしたい。
- ・ 平成29年度の第1回委員会でも積極的にレポートを報告していると感じていたが、数年経った今も同じような件数の報告が出ているので、正常に機能していること、役割が維持されていることを実感した。安全管理体制というものがシステムだけではなく、中身としてもきちんと運用されていると感じた。
- ・ インシデント報告について、例えば入院患者数での補正やヒヤリハット及びレベル1の事例とそれ以上の事例の比など、クオリティーインジケータを導入しモニタリングすることで、よりいっそう安全文化の測定をしていくことができるのではな

いか。

- 重大な有害事象が発生した場合の会議体や手続き、フローなどについて、きちんと明示化され、職員が理解しやすい状態であり、適切な運営がされている。
- 3b以上の影響の大きい事例についても、丁寧に全て検討されており、その中でも重大なものについては重大事故調査委員会で漏らさずに検討するしっかりした仕組みを整えている。
- 事例を分析するにあたっては、個人の責任にせず、難しいことでもチャレンジしていく対策を取っている。重大な事例からきちんと学んで、病院の医療をより良くしていこうという姿勢を見て取ることができた。
- 親切で患者本位の病院づくりという持ち味を生かした安全文化の醸成に今後も努めていただきたい。

和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会
委員長 山口悦子